



山形県森林協会は、『美しい森林づくり推進国民運動』を推進しています。

森林やまがた

No.202

2022.11



目次



- 第30回山形県林業まつりが開催されました！…………… 2
- 山形県森林ノミクスカーボンニュートラル推進事業
ゼロカーボンやまがた2050の実現に向けて…………… 3
- 令和3年度再造林の状況
～山形県再造林推進機構の取組みについて…………… 4
- やまがた森林ノミクス県民会議について…………… 5
- やまがた木育人材養成講座【スキルアップ】を開催しました… 6
- 国有林から
「国民の森林」～多様な森林空間の利用～…………… 7
- みどりのページ
「ゼロカーボンシティ」の取組推進について…………… 8
- 令和4年度緑の募金公募事業について…………… 8
- 緑の募金にご協力いただいた企業・団体のみなさま… 9
- 林業への新規就業・就業の円滑化の取組み
山形県林業労働力確保支援センター…………… 10
- 森の人
結城 貴宏さん 石栗 聡さん…………… 11
- スタートピックス
ワラビ粉生産に向けた栽培管理技術の開発…………… 12
- フォレスト通信 農林大学校林業経営学科から
炭窯作りと先進農林業者体験学習…………… 13
- むらやま地域森の感謝祭2022…………… 14
- 最上総合支庁食堂での「地産地消定食」の取組みについて… 14
- 「遊学の森20周年記念フェス」を開催…………… 15
- 育む緑に願いを込めて ～子供たちが彩る緑化推進～
ポスター原画コンクール…………… 16
- 光ヶ丘松林整備ボランティア(秋季)の開催について………… 17
- 森林・林業作業時の負傷(ケガ)の対応
勉強してみませんか？…………… 17
- 高性能林業機械メンテナンス研修を会開催…………… 18
- 山形県の古木名木
尾幡山の大スギ(飯豊町)…………… 19
- 丸太価格・製材品価格の推移…………… 20

(表紙写真: 令和4年10月15日、16日に開催された「第30回山形県林業まつり」の開催状況)

第30回山形県林業まつりが開催されました！

第30回山形県林業まつりが令和4年10月15日・16日の二日間、天童市の県総合運動公園駐車場特設会場にて開催されました。令和元年度を最後に、新型コロナウイルスの影響で中止を余儀なくされましたが、今年は新型コロナウイルス対策を万全に行い、3年ぶりに開催することが出来ました。



今年も「第70回山形県農林水産祭」の一環として、秋の味覚を楽しむ「秋の食彩まつり」と同時に開催しました。



木工体験

2日間ともに、温かな日差しが差し込む爽やかな秋晴れに恵まれ、1万7千人の方にお越しいただき、大盛況でした。

15日正午からは「農林水産祭合同オープニングセレモニー」を実施し、主催者と来場者による丸太カットを行いました。

出展者による各種ブースでは、県産きのこ、山菜加工品の展示販売や、県産木材を使用した家具や食器、積み木等の子供用玩具等の展示販売が行われたほか、木工クラブ体験や

事業紹介パネルの展示など、子どもから大人まで参加できる楽しいイベントを実施しました。

このうち、木造建築のブースでは、今流行りの県産木材を使用したグラмпینگテントや迫力のある木造住宅構造躯体などが多数展示され、来場者の皆様に直接見て触れていただくことで、木のある暮らしの良さを身近に感じていただきました。

また、チェンソーアートのデモンストレーションでは、1本の木から彫刻作品を作り上げる職人技に、多くの人が魅了されていました。



チェンソーアート



木工品の販売

今年の林業まつりは、コロナ禍により、例年行われてきたステージイベントを中止するなど、規模を縮小した開催となりましたが、来場者の皆様にお話を伺うと、久しぶりの開催を喜んでいる声が多く、木に親しむイベントを存分に楽しんでいただけたと思います。

今後とも、県民の皆様には森林・林業・木材産業の重要性をご理解いただくとともに、木材の良さや森の恵みを実感していただけるよう、関係者と連携して運営してまいりますので、皆様のご協力をよろしくお願ひします。

〔県森林ノミクス推進課〕

山形県森林ノミクスカーボンニュートラル推進事業

「ゼロカーボンやまがた2050の実現に向けて」

【はじめに】

森林ノミクスの加速化による森林吸収量を増大させるため、令和4年度から、効率的な間伐や低コスト再造林、航空レーザ測量による高精度な森林情報の整備、ICT等を活用したスマート林業等を総合的に推進する山形県森林ノミクスカーボンニュートラル推進事業を実施しています。

【事業内容】

○高性能林業機械ヘッド更新支援事業
高性能林業機械の活用を促進し、間伐・主伐の生産性向上を図るため、耐用年数（5年）を経過した機械のヘッド更新に対する支援を行います。（補助率1/3）



高性能林業機械（ハーベスタ）

○低コスト再造林システム促進事業
低コストの主伐・再造林を促進し、森林の若返りにより吸収量増大を図るため、再造林の低コスト化（低密度植栽2千本/ha）に資する主伐・再造林一貫作業システムに係る伐採経費に対する支援を行います。（定額補助）



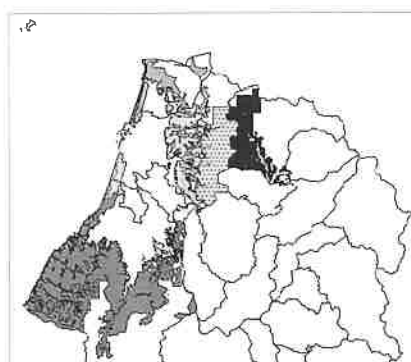
集材機械等を活用した地拵え
（一貫作業で伐採者が機械で行う植栽前の準備作業）

○森林資源デジタル化推進事業
高精度な森林資源情報等を把握するため、県、市町村及び東北森林管理局がお互いに財源を負担した上で、県が航空レーザ測量を一括発注し、高精度な地況・林況情報（デジタルデータ）を取得します。3者が共同で実施することで、スケールメリットによる費用軽減が見込まれます。

令和4年度は、庄内地域の4市町と隣接する真室川町で航空レーザ計

測を行い、その成果を活用した森林資源解析は令和5年度以降の実施を予定しています。

経費の負担割合
（私有林部分） 県2割、市町村8割
（国有林部分） 全額森林管理局



令和4年度航空レーザ測量予定箇所
（計約11万ha）

○スマート林業実践化モデル事業
スマート林業の実践と普及を図るため、関係者による協議会を組織し、真室川町内のモデル団地でICT等を活用した現地調査や木材生産、再造林・保育技術等を総合的に実践し、県内林業事業体へ普及を行います。

【終わりに】

県では、本事業における取組みのみならず、住宅支援等など川上から川下までのやまがた森林ノミクスの取組みを加速させ、「ゼロカーボンやまがた2050」の実現を目指していきます。

〔森林ノミクス推進課〕



人工林の循環利用によるCO₂吸収量の増大

○間伐生産性向上対策事業
集約化・効率化した間伐を促進し、森林の二酸化炭素吸収量の増大を図るため、林業事業体等が策定する生産性向上計画（一箇所当り10ha以上）に基づいて実施する搬出間伐と作業道開設に対する支援を行います。（定額補助）

～山形県再造林推進機構の取組みについて～

山形県再造林推進機構では、人工造林地の主伐後の再造林を促進するため、県産木材の生産販売、仕入製材加工、自家消費及び立木販売を行う事業所等から1㎡当たり20円の協力金を募り、それを原資として積み立てた基金から、再造林経費10%相当分を助成しております。令和3年度は1,000万円をこえる多大な金額を寄せていただきました。また、再造林を実施した事業体に対して7,370千円(82件73.82ha)の助成を行いました。

協力協定森林組合・事業所の方々に深く感謝申し上げます。

(山形県再造林推進機構)

再造林基金造成に御協力をいただいた事業所

(協力協定森林組合系統)

山形県森林組合連合会 山形地方森林組合 天童市森林組合 西村山地方森林組合 北村山森林組合 東根市森林組合 最上広域森林組合 金山町森林組合 米沢地方森林組合 西置賜ふるさと森林組合 小国町森林組合 出羽庄内森林組合 温海町森林組合 北村山森林組合 (以上14組合 敬称略)

(協力協定事業所)

(有)青野製材所 上妻林業 (株)旭林業 (株)阿部製材所 (有)荒井材木店 荒生木材(有) 安楽城林産(株) (株)荒正 五十嵐幸一 (株)石川製材所 (合同)イズミ (株)岩浪木材センター (株)E C Oグリーン米沢 NKCながいグリーンパワー(株) (有)遠田林産 おきたま木材乾燥センター(株) (株)沖田木材産業 金上林業 岸三郎兵衛 木村製材所 (株)キムラ林業 協和木材(株)新庄工場 グリーン・サーマル(株) (有)小関興業 (株)佐藤工務 佐藤製材所 (株)佐藤林業 (有)佐藤林産 三英興業(株) (株)下山製材 (株)シュナイト (株)庄司製材所 庄内ウッド (有)新庄林業 (株)大和 (有)高菊林業 (合同)高清組 (有)高橋林業 (有)たくみまさの 東北ウッドカッター(株) 中津川バイオマス(株) 西垣林業(株)酒田事業所 日本製紙木材 (株)酒田営業所 (株)古澤製材所 (株)北越マテリアル新庄工場 (株)北越マテリアル米沢工場 (株)北桜林業 前田製材所 マルカ林業(株) (株)武藤林業 (株)もがみ木質エネルギー 山一木材 (株)山形城南木材市場 (株)やまがたの木乾燥センター (株)ヤマムラ 山元林業(株) (有)山六製材 (株)結城林業 (有)渡部製材所 (株)渡会電気土木 (以上63事業所 五十音順 敬称略)

《令和3年度再造林の状況》

県は、第4次農林水産業元氣創造戦略で掲げる「再造林率100%」の目標達成に向けて、再造林推進機構と連携し、再造林に要する経費の100%支援や、伐採者と造林者との連携強化等の各種施策を展開しています。その結果、令和3年度の再造林率は72%となりました。

なお、再造林面積は、平成28年度は32haでしたが、令和3年度は107haと毎年着実に増加しています。

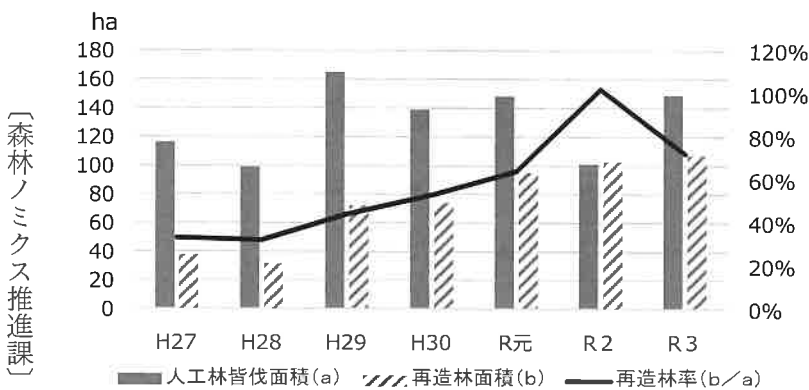
また、皆伐面積については、木材市況や自然災害等の影響を受けやすく、年度毎の増減がみられ、新型コロナウイルス感染症の影響で出荷制限等があった令和2年度は101haでしたが、令和3年度は、ウッドショックによる製材品価格の上昇等の影響で149haとなりました。

県では、令和4年度の森林計画制度の改正で、主伐後の報告が森林所有者等に義務付けされたことから、主伐箇所ごとに再造林の進捗状況を確認し、原則として皆伐後2年以内に行うこととなっている再造林の確実な実行につなげてまいります。

※(再造林率の計算方法)

全国で統一した再造林率の計算方法がなかったことから、山形県では、「当該年度に再造林した面積」を、「当該年度に提出された皆伐の届出面積(但し、林地開発や線下伐採等は除く。)」で除したものを採用しています。

皆伐・再造林面積及び再造林率の推移



〔森林ノミクス推進課〕

やまがた森林ノミクス県民会議について

◆はじめに

県民総参加による「やまがた森林ノミクス」をより一層推進していくため、10月18日に令和4年度やまがた森林ノミクス県民会議を開催しました。

この会議は、行政関係者（国、市町村）、学識経験者に加え、川上（森林・林業団体等）、川中（木材産業界・林業関係者）、川下（建築関係、観光関係、環境教育、消費生活等）に関わる事業者や公募委員など様々な分野の委員により構成されています。



吉村知事挨拶

◆会議内容

会議では、吉村知事の挨拶に続き、やまがた森林ノミクス及びやまがた緑環境税の取組状況について県からの説明を行いました。

委員から、川上については「再造林面積の増加は素材生産量の増大にもつながっているので評価できる」、

「賃金の改定等により、労働環境の改善をしているが、森林整備を行う若い人材が少ないため、厳しい現状がある」、「農業分野ではすでに実用化が進んでいる労働力軽減のためのドローン等を活用したスマート林業の推進が必要」などの意見がありました。

川中については「昨年のウッドショックの影響で外材不足が続いていたが、6月以降、県産木材の需要は落ち着き、現在、地域の木材産業の状況は厳しくなっている」、「素材生産は燃油高騰の影響によるコストの上昇、販売面では製品のだぶつきにより非常に厳しい」、「県産木材を活用した住宅や民間施設への支援について、高品質化（JAS製品認定）したものの利用に対する嵩上げ支援を要望したい」などの要望がありました。

川下については「杉は非常に加工しやすいが強度が低いため、床材としても需要のある広葉樹材の生産も増やしてほしい」、「しあわせウッド運動としての保育所等への積木の配

布は木育の推進につながっているもので、ありがたい」全体を通しては、「森林ノミクスの普及啓発のため、幼稚園に木製の遊具を新規に設置したことなど、普段から取り組んでいる事例もホームページや広報紙等に掲載し、県民に発信していくことが必要」との様々な視点から意見をいただきました。



会議の様子

◆おわりに

今後、県では本会議をはじめとして多角的な視点からの意見をいただきながら、「やまがた森林ノミクス」のさらなる加速化に向けて取り組んでまいります。

〔県森林ノミクス推進課〕

土砂災害を防止・軽減するには
「治山施設」が必要です！
森林を整備・利活用するには
「林道施設」が必要です！

山形県森林土木建設業協会 会長 永井 敏行

◇事務所：山形市あさひ町16-21 TEL(023)632-3893 FAX(023)632-5454

さらになる言みへ！

やまがた木育人材養成講座「スキルアップ」を開催しました

◆はじめに

県では「やまがた木育」を推進しており、森や木に「触れる」「創る」「知る」という3つの活動を通して、森林の文化や木を活かす暮らしの大切さの理解を育んでいます。

この「やまがた木育」の担い手となる人材養成を目的とした「やまがた木育人材養成講座」を令和元年度から開催しています。

この度、幼稚園教諭等の幼児教育に関わる方等を対象に、「やまがた木育人材養成講座【スキルアップ】」を開催しましたので紹介します。今回は、これまで開催した初心者を対象とした講座の受講者に限定し、更なる技術向上を図るための内容にしました。講師は、平成30年度からご指導いただいている元岐阜県立森林文化アカデミー教授、松井勲尚先生と、その右腕である同非常勤講師の吉田理恵先生です。

◆講座について

- ・期 日 9月17日(土)～18日(日)
- ・場 所 県庁講堂
- ・参加者 12名

・内容

①プロローグ・講座実施の背景にある県の施策について

最初に、県の施策「やまがた森林ノミクス」と「やまがた木育」について説明し、やまがた木育を推進する目的について理解を深めました。

②講話・木育概論「木でつくることを通して伝えること」

講話では、草木塔に代表される、人と自然とを一体としてとらえる山形県の森林文化を活かし、材料としていただく木の「命」に目を向け、それを伝えることが大切であると教わりました。



やすりがけの指導を受ける

③実習・スプーン制作

・スプーンの「形」とその制作工程
使用した教材は、スプーンの原型

となる粗削りされた木材にやすりをかけ、スプーンに仕上げていくものです。普段何気なく使っているスプーンの構造について考え、使えるスプーンを作るために必要なことを教わりました。また、やすりで削る部位の順番や、美しく仕上げるコツについて、作業しながら教わりました。

・樹種による木材の材質の違いや木材の構造と適材適所について
広葉樹材の木材サンプルを見ながら、樹種毎の豊かな個性について学びました。樹木の特性から木材の構造を理解し、刃物で木材を加工する際に気を付けなくてはならないポイントなどを教わりました。



木材の特徴について学ぶ

講師からマンツーマンの指導を受けて仕上げたスプーンの完成度は高く、満足の出来栄となりました。

◆おわりに

受講者からは、「スプーン制作を通して、木から命をいただいていることを意識することができた。」等の感想をいただきました。

受講者の皆さんが担い手としてのスキルをさらに磨いていけるよう、県では実践経験を積む機会を作って参りたいと考えております。

〔県みどり自然課〕



講座の最後に講師との記念撮影



完成!木製スプーン



国有林から

「国民の森林」へ多様な森林空間の利用へ

国民の森林としての管理経営

森林管理署では、国有林を「国民の森林」として位置づけ、国民に対する情報の公開、フィールドの提供、森林・林業に関する普及啓発等により、国民に開かれた管理経営に努めているところです。

また、国有林は国民共通の財産であるとともに、それぞれの地域における資源でもあることを踏まえ、地域振興へ寄与する国有林の利用等にも取り組んでいます。

今回は置賜森林管理署管内で国民の森林として親しまれ、利用されている魅力的な森林空間を二例紹介します。

心と体が癒やされる森林

国有林には、優れた景観を呈し、多様な動植物が生息する原生林が比較的多くあり、森林浴や自然観察等に適した森林を「レクリエーションの森」に設定しています。

置賜森林管理署管内では、小国町にある温身平風致探勝林（54・68ha）がそれに該当し、観光資源としての潜在能力がある森林として、「日本美



温身平風致探勝林

しの森お薦め国有林」にも選ばれています。

温身平一帯は、全国屈指の豪雪地帯で、豊富な水をもたらし、白いブナの幹と雪のイメージから「白い森」とも呼ばれ、ブナやミズナラを中心とする原生的な森や、ツキノワグマ、イヌワシ、クマタカ等が棲む豊かな生態系が育まれています。

また、平成18年には全国初の森林セラピー基地にも認定されており、秀峰飯豊連峰を間近に望み、素晴ら

しいブナ林の中を心と体が癒やされるのを感じながら約5.5km、2時間、散策できる森林です。

往事を偲ぶ古道の森林

置賜地方から下越地方に通じる旧越後米沢街道は、途中に13の峠があることから十三峠とも呼ばれ、その一つに敷石道で知られる黒沢峠が国有林の中にあります。

英国の旅行家イザベラ・バード女士の著書「日本奥地紀行」に越後から十三峠を越えて米沢に入った時のことが書かれており、黒沢集落の生活や重い荷物を背負って峠を越える人々の苦勞が記されています。

時代とともに、十三峠は忘れられ

古の道は廃れましたが、黒沢の人々は昭和55年に保存会を発足させ、草や木で分からなくなったり、土や落ち葉で埋もれた敷石を5年かけて復活させました。

かつて塩や煙草を担いで越えた人夫、武具を着けて駆けた侍や古道復活に情熱をかけた人々に思いを馳せながら、黒沢から市野々までの約3.0km、60分余り、敷石約3,600段のスギや広葉樹に囲まれた古道を散策することができます。

新たな森林空間利用のうごき

近年、人々のライフスタイルや社会情勢が変化する中で、メンタルヘルス対策や健康づくり、環境教育や社員教育の場等として森林空間を利用したいというニーズが高まっています。

さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、自然豊かなリゾート地等で余暇を楽しみつつ仕事をを行うワーケーションにも注目が集まっています。

こうしたニーズにも応えられるよう地域の方々の協力の下、国有林の魅力をもっと磨き上げ、より多くの方に美しい森林空間を味わってもらえるよう、取り組んでまいります。

〔置賜森林管理署〕



黒沢峠の敷石道

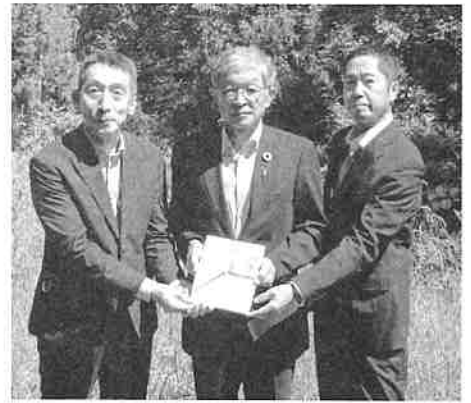


みどりのページ

「ゼロカーボンシティ」の取組推進について

ゼロカーボンシティとは、「2050年にCO₂を実質ゼロにすることを指すことを公表した地方自治体」であり、山形県をはじめ、県内では17の自治体が表明しています（令和4年7月現在）。

このゼロカーボンシティの取組みを後押しするために、フィデアリース株式会社（山形市）は、芙蓉総合リース株式会社（東京都）等と提携して「芙蓉ゼロカーボンシティ・サポートプログラム」を実施しています。このプログラムは、ゼロカーボンシティを表明している自治体内で再生可能エネルギー関連設備等を導入する際に利用できる「寄付型」ファイナンスで、その契約額の一部を、自治体やゼロカーボンシティの推進に取組む団体へ寄付するという内容です。このプログラムにより、当機構へもご寄付をいただきました。いただいた寄付金を活用して事業を実施し、地域の脱炭素化に貢献したいと考えています。また、こうした脱炭素社会の実現を目指した取組みが更に推進されることを期待しています。



寄付金目録を手にする関係者

令和4年度郷土の名木・古木等保全事業について

「郷土の名木・古木等保全事業」は、地域のシンボルである名木や古木を「緑の文化財」として守っていくことを支援する助成事業です。

県または市町村指定の天然記念物の樹木を対象として、樹木医による診断カルテ作成と、樹勢の回復や樹木の保全を図る作業に要する経費（1件あたり上限50万円）を助成するものです。

今年度は、事前審査と樹木医による診断を経て、下表のとおり4件の樹木が助成金の対象に決定しました。診断カルテにもとづく保全作業は、担当した樹木医による指導のもとで実施されます。

令和4年度 助成対象樹木

市町村	名 称
山形市	松尾山のカツラ
新庄市	いするぎ石動の親スギ
鶴岡市	曹源寺のヒサカキ
鶴岡市	乳銀杏（旧朝日村）

今後も「緑の文化財」を地域の皆さんで大切に見守っていただきたいと思えます。

令和4年度緑の募金公募事業について

県民の皆様からご協力いただいた「緑の募金」は、森林の整備や身近な緑を増やす活動、木製遊具の設置などに活用しています。一般の県民の皆さんから事業を募る「緑の募金公募事業」については、事業内容に応じた下記のとおり3つの区分で募集を行いました。

8月に行った選考委員会において、今年度の採択事業が決定しましたのでお知らせします。

◆森林整備事業

内容 森林整備活動や森林整備体験への助成

対象 NPO、ボランティア団体等
金額 1件あたり上限20万円
対象経費 資材費、保険料等
採択件数 4件

採択額 671,000円

◆植樹支援事業

内容 緑化推進や環境教育等を目的とした樹木の植栽への助成

対象 NPO、ボランティア団体等
金額 1件あたり上限10万円
対象経費 苗木や標柱・看板等の資材費のみ
採択件数 4件

採択額 367,000円

◆木育活動支援事業

内容 県産木材の利用促進と木育活動の推進を目的とした木製品購入への助成

対象 幼稚園、保育所等の管理・運営者又は保護者会等
金額 1件あたり上限10万円
対象経費 県産木材を利用した木製品の購入費及び設置に係る経費
採択件数 14件

採択額 1,372,000円

〔公財）やまがた森林と緑の推進機構〕

「緑の募金」にご協力いただいた企業・団体のみなさま

(R4. 8. 1~R4. 9. 30)

(やまがた森林と緑の推進機構取扱い分)

(株)アールテック、(株)アーレスティ山形、アイ・エム・マムロ(株)、(株)相田商会、(有)青木建材、秋葉商店(有)、曙ブレーキ山形製造(株)、(株)アサヒ技術、(株)アツケン、(株)安部組、有賀建設(株)、(有)アルファ設計、(株)安藤建設、飯鉢工業(株)、五十嵐工業(株)、(株)石川測量事務所、(合)イズミ、(株)伊藤造園土木、(株)井上産業、(有)入野商会、(株)ウエステック山形、(有)エコファーム長井、(株)エヌイーエスコポレーション、F.M.P.カンノ(株)、M木工、(有)遠藤建機、遠藤建設(株)、(株)王祇建設、大江設計(株)、大ケヤキ中央保育園(株)、(有)大滝商店、(有)オオタケ、(株)大沼建設、(株)オオバ、オールイ環境サービス(株)、岡崎医療(株)、(株)奥山建設工業所、海藤林産、(株)カキザキ、(株)柿崎工務所、笠原建設工業(株)、勝川建設(株)、(株)克技術設計、加藤総業(株)、(株)金沢総合コンサルタンツ、(株)カナル、(株)カナン、(株)金子建設、カムロ運送(株)、(株)カルイ、川田建設(株)、(株)環境管理センター、(株)菅野測量設計事務所、北日本オイル(株)、北日本特殊イサベラ建設(株)、工藤石油店、(株)工藤測量設計、クリーンサービス(株)、(特非)グリーンセンター、(株)黒田組、(有)ケイ・ティー・ティー、(株)ケンコン、(有)県南エコサービス、弘栄設備工業(株)、(有)厚生社、小白川建設(株)、(有)小関興業、(有)後藤竹材店、小林防護工事(株)、コマツ山形(株)、(株)小森マシナリー、(株)コヤマ、(有)最新清掃興業、(株)斎藤板金工業所、(株)蔵王ミート、(株)ザオー測量設計、酒井鈴木工業(株)、(株)寒河江測量設計事務所、(株)桜本製作所、(株)佐々木建設、(株)佐藤組、佐藤建設工業(株)、(株)佐藤防災、三協コンサルタント(株)、(有)三幸園、(株)三要、(株)三和、三和油脂(株)、J A 鶴岡、J A 全農北日本くみあい飼料(株)、J A 山形、(株)シェルター、塩谷物流(有)、芝電化(株)酒田工場、(株)十字電子、(株)シュナイト、庄内赤川土地改良区、(株)庄内エコポリス、(株)庄内銀行県庁前支店、城北電気工事(株)、新庄土木(株)、新和設計(株)、菅井製材所、(株)菅野測量設計、菅原建設(株)、(株)菅原工務店、(株)菅原工務所、スズキハイテック(株)、(株)須田木材、(株)誠朋建設、ソック(株)、(株)大商金山牧場、(株)ダイユー、(株)大和エンジニア、(有)高菊林業、(合) 高組、高島電機(株)、(株)高梨製作所、(株)高橋工務店、高橋土建(株)、高橋林産、(有)高万商店、(株)高良山形営業所、(株)田村測量設計事務所、タンノ清掃興業(株)、中央清掃(有)、(株)中幸製作所山形工場、(有)ツチャククリーン、角田商事(株)、鶴岡ガス(株)、T P R 工業(株)、(株)テトラス、天童環境(株)、(株)天童木工、(株)でん六、東光計測(株)、東邦運輸(株)、東北エプソン(株)、東北クリーン開発(株)、東北警備保障(株)、(有)東北紙商、(株)東北消防設備、東北ナノテック(株)、(株)東北緑地造苑、(株)トーカイ、内外緑化(株)、(株)永田プロダクツ、中津川バイオマス(株)、(株)中村建設、(株)ニクニ白鷹、(株)仁科工務店、日東ベスト(株)、(株)沼澤工務店、ハイメカ(株)、(株)畑山、葉山建設(株)、ヒミヤ石油工機(株)、(株)フジテック、(有)舟形マッシュルーム、(有)古澤製材所、文化清掃(有)、堀川土建(株)、(株)本間利雄設計事務所、マサミ工業(株)、マックル(株)、(株)マツダ建設、(株)松田木材、(株)マルカ、マルカ林業(株)、(株)丸吉奥山組、(株)マルコウ環境、丸七建設(株)、マルフク、水澤化学工業(株)水沢工場、(株)三和精機、ミドリオートレザー(株)、ミドリ鮭川工業(株)、(株)武藤林業、(株)ムラヤマ、(株)最上振興、(株)最上世紀、もがみバイオマス発電(株)、(株)本沢、(株)矢作組、(株)山形ウッドエネルギー、山形オートリサイクルセンター(株)、山形ガス(株)、(株)山形環境エンジニアリング、山形環境保全協、(株)山形銀行、山形空港ビル(株)、山形警備保障(株)、山形健康管理センター、山形県商工会連合会、山形県職業能力開発協会、山形県森林土木建設業協会、(公社)山形県畜産協会、山形県中小企業団体中央会、(一社)山形県土地改良建設協会、山形県森林ノ整備事業協、山形航空電子(株)、山形酸素(株)米沢営業所、(株)山形テレビ、山形電子(株)、(株)山形道路、山形トヨペット(株)、(株)山形ハーネス、山形富士電機(株)、(株)山形メイコー、(株)山形メタル、やまがた森の感謝祭2022実行委員会、山形緑十字(株)、(有)山口製材所、山新建装(株)、山田建設(株)、(株)ヤマトテック、(株)山本製作所、山和建設(株)、(株)ユアシス、(有)ユウアイ通建、(株)ラムダ、(株)理研分析センター、(有)緑商、(株)渡辺商店

(敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました



林業への新規就業・就業の円滑化の取組み

山形県林業労働力確保支援センター

◆はじめに

県内においては大型の製材工場が本格稼働し、また、木質バイオマス発電所が計画あるいは稼働する中、ウッドショック等の国際情勢の影響も相まって、木材の需要が急激に高まってきました。こうした動向に対応するため、木材の生産現場では、担い手の確保と育成が急務となっております。

一方、雇用情勢は少子高齢化や新型コロナウイルス感染拡大による求職者数の減少等から人手不足が常態化しており、担い手の確保が難しい状況が続いています。

◆山形県林業労働力確保支援センター

山形県林業労働力確保支援センター（以下、「労働センター」という）の役割は、認定事業者（雇用管理の改善及び事業の合理化を推進する意欲があり、「雇用改善計画」を作成し、知事から適当である旨の認定を受けた事業者。4年8月現在53事業者）の雇用管理の改善、事業の合理化、林業への新規就業・就業の円滑化に対する支援です。

今回は、喫緊の課題となっている

林業への新規就業・就業の円滑化について、令和4年度前半の新たな取り組みなどをご紹介します。

◆林業就業希望者向けオンラインセミナー

一般社団法人ふるさと山形移住・定住推進センターと共催で、今年度初めて、7月31日にオンラインセミナーを開催しました。



オンラインセミナーの様子

森林資源を活用し、いきいきと豊かな生活を営むゲストを招き、森と暮らしの関わりの魅力を感じること

で、林業就業のきっかけづくりを目的としたもので、県内の林業に関心を持つ県内外在住者20名（定員）から参加の申し込みがありました。

◆林業就業前マッチング支援

今年度初めて、緑の雇用事業を活用した「林業就業前マッチング支援」を8月9日開催しました。林業の求職者等が林業就業に対する意識を確立することを目的に、林業の現場訪問、関連施設の見学を行う事業で、

当日は7名の参加がありました。林業就業サポート講習や来年1月山形市内で開催予定の森林の仕事ガイダンス（事業者職員が相談員となり求職者の疑問に直接応える相談会）に結び付けて行きたいと考えています。



林業就業前マッチング支援の様子

◆林業就業サポート講習

林業への就業と職場定着のサポートを目的に、チェーンソー、刈払い機の資格取得や、林業作業の実地講習等を行う林業就業サポート講習を9月1日から15日までの平日10日間開催し、林業就業を希望する30歳代の男性1名の参加がありました。

◆その他

林業への新規就労を支援するため、毎月認定事業者の求人状況をセンターHPに掲載、林業の求職者等からの就業に関するオンラインや電話等による相談対応、認定事業者の概要をまとめたガイドブックを発行しハローワークに配置する等しています。

さらに、県内の林業事業者への就業を促進するため、全国からの林業分野の求職者と県内の求人事業体の間を取り持ち、雇用契約など紹介・斡旋等（マッチング）を担う「無料職業紹介所」について、年内の開設を目指して準備を進めています。

◆おわりに

労働センターでは、県や関係団体と連携をとりながら今後とも認定事業者の雇用管理、労働環境の改善、林業への新規就業・就業の円滑化に向けた支援等を進めてまいります。（県林業労働力確保支援センター）

森の人紹介

最上町のきれいな山を未来へ

結城 貴宏さん



本年9月に父親から継いで株式会社結城林業の3代目社長に就任された、結城貴宏さんを紹介します。

結城さんは最上町に生まれ、宮城県で学生時代を過ごし、地元に戻った後に株式会社結城林業に就職し、今年で17年目になります。

休日は2人の娘さんと公園で遊ぶのを楽しみにしていると話す結城さんは、にこやかで温和な方です。

入社当時はチェーンソーによる伐倒作業やワイヤーによる集材作業に従事し、危険で肉体的にきつい仕事であることに大変驚かれたそうです。

15年前に最上町の木質バイオマス

ボイラーの稼働を機に、素材生産量の増加を目指し、当時県内でも先駆的な取り組みであるハーベスタを導入し、機械のオペレーターとして研鑽を積みました。

作業体系が大きく変化していく中で、効率良く安全に作業するため、作業道と土場の整備が重要なポイントと考え、常に社内でも相談し、工夫しながら進めているそうです。

また、森林所有者に持続可能な森林経営を提案するため、令和3年度に自社で初めての森林経営計画を作成しました。作成にあたり森林3次元計測システムを活用し省力化を図るなど、結城さんの意欲的な取り組みは続いています。

新たな取組みに加え、若手作業員の確保や育成を積極的に行っていくことと、機械作業だけでなく、従来どおりのチェーンソーによる伐倒作業も伝え残したい、と熱く話しておられました。

子供たちの未来に最上町の豊かできれいな山を残すため、持続可能な林業に取り組んでいきたい、とおっしゃっていたのが印象的です。

今後も結城さんの更なる活躍を期待しております。

〔最上総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

シイタケホダ場の調律師

石栗 聡さん



今回ご紹介するのは山の無い三川町で県内最大規模の原木シイタケを栽培している「き

のこ工房いしぐり」の石栗さんです。今年には原木の確保に苦労し、例年より減りましたが、ホダ木ベースで1万5千本生産しています。

石栗さんは、子供の頃から機械が好きで、調律師にあこがれて実家のピアノを解体して元通りに組み立て直した事もあります。進学した農業系の短大でも機械いじりに勤しみ、シイタケ作りを継ごうとは考えていませんでした。しかし、卒業後に国際農業者交流協会の海外農業研修に参加した事が転機となりました。2年間他所の農業経営を体験した事で、

実家の田畑やホダ場の価値を再発見し家業を継ぐ決心をしたそうです。

父親の下で修業した後、10年前に事業を引き継ぎました。振り返ると、柔軟な判断と積極的な挑戦ができる若い時分に責任を持つ立場に立てた事は大変良かったと考えているそうです。

機械好きは今でも健在で農場の設備の整備・更新は自分でやっています。自分でやるとアイデアを直ぐに実験・実証できる所が利点との事です。改善のための工夫や発明を楽しんでいて、農場内は作業を効率化するための様々な自作の設備や工夫であふれています。

不便や不具合を放置せず、全体が最適化するように少しずつ手を加える様はピアノの調律に通じるものがあるように思います。

原木の確保が目下の悩みとの事ですが、旺盛な創意工夫と実行力で乗り切り、地域の特用林産業を盛り立てていたとご期待申し上げます。



〔庄内総合支庁森林整備課〕

ワラビ粉生産に向けた栽培管理技術の開発

◆はじめに

夏の和スイーツとして人気の「わらび餅」の原料は何かご存じでしょうか？ 正解は、ワラビ粉（ワラビの根から採取される澱粉）なのですが、国産ワラビ粉は1キロ2万円以上する超高級品のため、一般的にはレンコン澱粉や輸入ワラビ粉が代用されています。かつてはワラビ粉が全国各地で生産されていましたが、現在は僅かに生産されているにすぎません。ワラビを地上部だけでなく根系も利用できれば、新たな需要につながりますが、ワラビ粉生産に関する知見は乏しく、効率的な生産方法は未解明です。そこで、当センターではワラビ粉生産に適した系統や栽培方法の研究を行っているのでご紹介いたします。

◆ワラビ粉の歩留まり調査

本研究を進めるにあたり、葛粉製造で有名な奈良県の森野吉野葛本舗さんに相談しました。同社では葛粉の他にワラビ粉も毎年自社で栽培から製造まで行っており、①ワラビ粉専用の系統があること、②歩留まり

は4〜8%で年変動が大きいこと、を教えてくださいました。根の重量に対する澱粉の採取量が、2倍も違うということは、生産するうえで重要な課題であるため、歩留まり調査から始めることにしました。

○系統調査

森野吉野葛本舗では、ワラビ粉国産シエアの9割以上を製造する鹿児島島のメーカーで用いている系統を使用しており、この系統を譲っていただき試験に用いました。また、比較のために山形県内で選抜された系統を用いました。

○施肥の差による澱粉生成量調査
20kg果樹コンテナに赤玉細粒土を



写真1 ヒゲ根を除去した根系

入れワラビポット苗を7月初めに植栽しました。それに対して週に1回、高度化成肥料をコンテナ当たり5g施肥した区と10g施肥した区を設けました。

○ワラビ粉の生成

11月に地上部が枯れてから根系を洗い出し澱粉を採取しました。根系のヒゲ根を取り除いてから(写真1)、水を加えてミキサーで粉碎し、1mmメッシュでろ過する工程を3回繰り返しました。ろ液は一晚静置し、沈殿物以外を廃棄後、加水して攪拌、静置を5回以上繰り返し返して精製しました。その後木綿布でろ過を行い、乾燥させて、不純物が少ない白い部分のみを取り出しました。

◆系統・施肥量による澱粉生成量

系統・施肥量の違いによる生成澱粉の重量を図1に示しました。吉野の専用系統の歩留まりが良かったものの、山形の系統でも6%以上のワラビ粉が採取できました。また、予想に反して施肥を多くすると歩留まりが下がり、ばらつきが大きくなることが分かりました。吉野の専用系

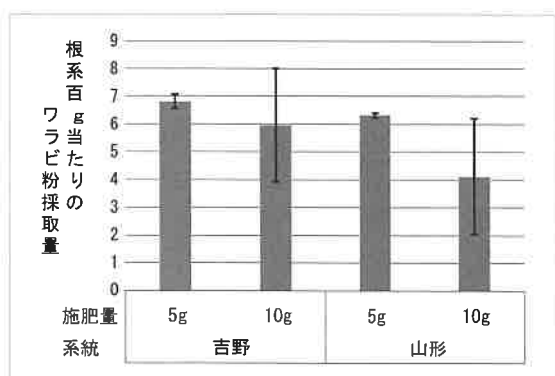


図1 系統・施肥量別の澱粉量

※エラーバーは標準偏差を示す

統では平均すれば高い歩留まりを維持していましたが、山形の系統では大幅に低くなりました。過度に施肥をすると、根系に澱粉を蓄積しにくくなるのかもしれない。

◆今後の研究

研究はまだ始まったばかりですが、栽培管理に関するだけでも多くの課題が見つかりました。生産現場では年変動が大きいと言われていて、肥料以外の環境要因として光条件等についても研究を進めたいと考えています。また、小国町ではワラビ粉の生産を既に行っているため、奈良県の歩留まり等と比較して基礎データを蓄積していきます。

〔森林研究研修センター〕

「炭窯作りと先進農林業者体験学習」

◇はじめに

今回は、農林大学校初の炭窯作りと先進農林業者体験学習についてお伝えします。

○炭窯の製作

現在、6期生は炭窯作りに奮闘中です。炭窯の製作は農林大学校では初めての試みで、リーダーとなる学生を中心に試行錯誤しながら進めています。

里山林と言われる広葉樹林の多くは、かつて薪炭林として管理されてきました。エネルギー革命以降、製炭業は衰退し、里山林の管理も疎かになりました。今後、SDGsやエネルギー問題などを考えるうえでも、製炭の技術は絶やさずに伝えていきたいと考えます。

今回の炭窯制作に当たっては、岩手県北上市で一般社団法人「楽炭」を運営する、炭焼職人の千田淳氏(以下、千田さん)の全面的な協力を得ることが出来ました。千田さんの指導からは、教科書を読んだだけでは分からない知識を沢山得ることが出来ます。また、千田さんの人柄もあ



炭焼き職人の千田淳氏による指導

って、みんな楽しく作業を行っています。

作業では、校内実習林の広葉樹をチェーンソーで伐採し、シヨベル機械で土を掘削して整地するなど、これまで習得してきた技術を総動員しながら進めています。また、多くの人員を要するため、効率的な作業の立てやチームワークの構築を図るための学習にもつながっています。

次号では、焼きあがった炭についての報告の予定です。(果たしてうまく焼けるか…)

○先進農林業者体験学習

本学習は農林大学校において重要なカリキュラムとして位置づけされており、1学年時の前期(6月)と後期(9月)の2回にそれぞれ10日間、林業事業体等の現場で実際の仕事を体験するものです。



チェーンソーによる造材作業体験(西川町内)

前期は入校したばかりで林業に関する知識も乏しいため、林業の基本的な作業等について理解していくことを目的にしています。一方、後期はチェーンソーや刈払機、高性能林業機械の資格講習も受けているため、それらの機械を使い林業の作業を実際の現場で学ぶこととなります。

今年の後期の体験学習は9月21日から30日までの期間を森林組合、民

間林業事業体、製材業者など10社から受け入れていただきました。

体験学習終了後は、学生の学習意欲がより高まりました。顔つきがたくましく変わってきました。また、本学習が、自らの就職先について考えていく大切な場ともなっています。

受け入れ先の皆様からは、厳しくも温かく指導していただき、学生にとって大きな経験となっており、間違いありません。



フェラバンチャの操作体験(最上町内)

林業事業体の皆様を支えられて、学生は成長してまいります。今後とも御指導くださいますよう、よろしくお願ひします。

〔山形県立農林大学校〕

やまがた地域森の感謝祭2022 〜森づくりウィーク〜

◆はじめに

村山総合支庁では、緑豊かな恵みに感謝し、森を守り、育て、暮らしに活かすことの重要性を広く訴え、美しく住み良い郷土の創造を目指し、県民参加の森づくりを推進するため「むらやま地域森の感謝祭2022〜森づくりウィーク〜」を開催しましたので紹介します。

◆式典、記念植樹について

式典は、令和4年9月29日（木）河北中央公園において開催しました。齋藤支庁長の開会宣言、森谷河北町長のあいさつのもと、後藤寛治氏（河北町）と鈴木悦郎氏（大江町）への村山地域森林・林業功労者表彰や河北町内の小中学校7校への西山杉で製作したプランターカバー、ベンチの贈呈などを行いました。式典の後、来賓、功労者、河北町立谷地西部小学校緑の少年団員などで、つじじ13本とケヤキ一本を植栽しました。

◆森づくりウィークについて

森づくりウィークは、9月29日から6日間、河北町地域交流センター「どんがホール」で、森づくり活動

や木育の取組み、河北町役場新庁舎の内装木質化などを紹介したパネルの展示、西洋シヤクナゲの苗のプレゼント、箸やスプーンの木工クラフト体験を行い、多くの町民の方から参加いただきました。

◆おわりに

今回は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、河北町にお住まいの方に限定しての開催となりましたが、これからも引き続き県民の皆様とともに広く森づくり活動を推進してまいります。

〔村山総合支庁森林整備課〕



最上総合支庁食堂での「地産地消定食」の取組みについて

◆地産地消定食の概要

最上総合支庁では、これまで地元食材の消費拡大を推進するため、同支庁食堂と連携して「地産地消定食」を提供してきました。

◆寄付金付き定食

今年度は、持続可能な地域社会に向け、更なる行動を促していくため、新たにSDGsの観点を盛り込み、期間中に提供された定食1食につき50円をSDGsに貢献している団体に寄付する「食べて応援!!地産地消でSDGs地産地消定食」として、寄付金付き定食の提供を行っています。

第3弾となる今回は、「もりもり食べたい!森林の恵みたっぷりランチ」と題して、9月16日（金）から26日（月）までの平日5日間、最上地域のきのこや最上伝承野菜を使った定食を提供しました。

中でも、20日の定食は、新庄南高等学校の食物部のみなさんが考案したメニューが提供され、多くのお客様に最上地域のきのこを食べていただくことができました。

また、期間中は毎日抽選できのこ

が当たるキャンペーンやきのこ関連の展示、16日と22日には最上地域の若手きのこ生産者の団体である「プロフェッショナルきのこ山形」によるきのこ即売会を実施したことで、幅広い方々が最上地域のきのこに触れるきっかけになったと考えております。

今回は計450食の定食が提供されたため、合計で2万2千500円が「公益財団法人やまがた森林と緑の推進機構」へ緑の募金として寄付され、今後、緑化活動等に使われます。



新庄南高校とのコラボメニュー
「どでするランチ」

◆おわりに

最上地域はきのこ類の県内生産量の6割以上を占める最大の産地です。今後とも、きのこ生産者等と連携して、最上地域のきのこ産業の発展に向けた取組みを実施してまいります。

〔最上総合支庁森林整備課〕

緑の少年団地区交流研修会同時開催 「遊学の森20周年記念フェス」を開催

令和4年9月17日(土)から19日(月・祝)の3日間、金山町の山形県遊学の森及びホテルシーエーネスハイム金山を会場に、遊学の森20周年記念「グッド・ウッドフェスティバル」が開催され、約500名の参加がありました。

遊学の森は、平成14年6月に天皇陛下をお招きして開催された、第53回全国植樹祭の式典会場として整備され、これまでも遊学の森では、「森と人との共存」をテーマに、地域資源を生かした自然観察、木工クラフト、森林体験等のイベントを開催してきました。

今回のフェスティバルでは、オカリナコンサートやチェーンソーカービングショー等の見学型のイベントだけでなく、遊学の森の魅力を再確認する企画として、和紙スノーボールランづくり、オカリナ絵付ワークショップ、つる細工や木の箸・スプーンづくりなど、参加者が実際に手や体を動かして参加することができ、ワークショップも開催しました。親子で訪れたと教えてくれた小学生

の女の子は、「オカリナづくりがしたくて今回きました。自分だけのオカリナが作れて楽しかった」と嬉しそうに教えてくれました。



つる細工づくり

また、期間中の18日(日)に、同会場において3年ぶりに「最上地区緑の少年団交流研修会」を開催し、舟形町、大蔵村、戸沢村の各少年団員や保護者等計32名の参加がありました。緑の少年団が交流を図りながら、森林探検、木工クラフトなどを五感で感じながら体験し、森の多様性と森林資源の循環利用について理解することを目的として開催しました。

新型コロナウイルス感染症対策をしたうえで、各町村混合の5班体制で木の実の味や葉っぱの違いを体験するネイチャービンゴ森林探検、カービングショー見学、マイ箸、マイスプーンを製作する木工クラフトを行いました。

最後に行った各班の振り返り発表では、面白かったこととして「キイチゴやヤマボウシを食べた」「甘い」と酸っぱいのがあってクジの当たり外れみたいだった。苦勞したこととして、「森のビンゴカードをそろえるのが大変だった」「箸づくりの際、ケガしないように気を付けながらカンナがけするのが大変だった。次はこんなことをしてみたいこととしては、『来年はチェーンソーを実際に体験したい』『木のキーホルダーなど面白いものをつくりたい』等の意見がありました。来年の交流会では、団員からの声を反映させた、よりよい交流研修会を実施していきます。

今回のフェスティバル及び交流研修会では、参加者は見学だけではなく、実際に手や体を動かす体感型の活動ができました。遊学の森では、これからも案内人会等と連携し、参加者体験型の活動を積極的に企画・展開していく予定です。

〔最上総合支庁森林整備課〕



木の箸、スプーンづくり



ヤマボウシ試食

育む緑に願いを込めて 子供たちが彩る緑化推進

置賜林業推進協議会では、置賜地域の緑化・育樹運動の推進や森林保全の意識高揚を図るため、「置賜地区緑化運動・育樹運動標語及びポスター原画コンクール」を実施しましたので、審査結果を報告します。

当コンクールは平成17年度から実施しており、今年で18回目となります。今年度の応募数は、標語部門10校439点、ポスター原画部門小学生の部6校29点、中学生・高校生の部9校110点でした。

近年、SDGsを学ぶ学校が増え、応募作品の多くも、制作を通し緑化への関心を深める目的を持って取り組んで頂いています。そのため、今年度は、構図や色彩等、作品の表現テーマを深く汲み取れるよう、東北芸術工科大学の先生を審査員に招き、審査を行いました。



審査会の様子

☆標語部門

最優秀賞

さきる使う 植えて育てる 元気な森林

飯豊第一小学校

4年 菅野 雄翔さん

優秀賞

植えた木が生みだす森林 つくる未来

米沢工業高等学校

1年 西内 優斗さん

優秀賞

この手から 未来へつづく 緑のバトン

小国中学校

3年 保科 優斗さん

入選

そだてよう まもろう

じゅんかんエネルギー

小国小学校

2年 齋藤 雪鶴さん

入選

小さな芽 みんなを守る 森になれ

小国小学校

6年 岩田 眞於さん

入選

育てよう 緑と水と 豊かな未来

米沢南部小学校

6年 嵐田 悠太さん

入選

つなげよう 緑の宝石 育樹から

米沢工業高等学校

1年 齊藤 准平さん

☆ポスター原画部門

(小学生の部)

最優秀賞



「しぜんとくらそう」

長井小学校
1年 渡部 大馳さん

優秀賞



「もりをだいじにしたいな」

川西吉島小学校
1年 齋藤 いつきさん

入選



「緑へと成長していく小さな苗木」

米沢南部小学校
4年 瀧口 陸斗さん

入選



「この手から未来へ」

米沢三沢西部小学校
6年 島扇 乙葉さん

☆ポスター原画部門

(中学生・高校生の部)

最優秀賞



「緑色の自然」

米沢第五中学校
2年 齋藤 聖空さん

優秀賞



「地球は植物と共に」

米沢第七中学校
2年 渡辺さくらさん

入選



「森の命」

米沢第二中学校
1年 高橋 愛紗さん

入選



「育む」

米沢工業高等学校
1年 安達 立峰さん

〔置賜総合支庁森林整備課〕

光ヶ丘松林整備ボランティア (秋季)の開催について

◆はじめに

庄内海岸林は、庄内砂丘に広がる延長約33km、面積約25km²の広大なクロマツ林で、庄内地域の人々の暮らしを飛砂や強風から守るため、先人達の手によって植林された歴史的遺産です。現在、その多くは、飛砂防備・潮害防備保安林に指定されており、地域の人々の暮らしを守る役割を担うとともに、地域産業の基盤となっています。

光ヶ丘松林整備ボランティア活動は、庄内海岸林を自らの手で整備することで、先人達が残してくれたクロマツ林を守り育てる意識の醸成を図ることを目的に、酒田市で年2回開催されています。

◆光ヶ丘松林整備ボランティア(秋季)の活動について

令和4年9月24日に開催された今年度2回目の秋季活動は、朝からあいにくの雨模様でしたが、地域住民や近隣の小・中学生、ボランティア団体、地元企業など多岐にわたる総勢122名の方々が光ヶ丘公園に集結しました。開会式のあと、参加者は光



〔庄内総合支庁森林整備課〕

ヶ丘公園班と万里の松原班の2班に分かれ、関係団体や森林整備ボランティア団体から指導を受けながら、下刈り鎌を使用し、景観の整備に励みました。参加者からは「はじめて下刈り鎌を使ったが、コツを掴むまで難しかった」、「疲れたが、達成感があった」などの感想がありました。

◆おわりに

現在、庄内海岸林のクロマツ林は松くい虫により甚大な被害を受けています。この大いなる遺産を守っていくため、今後も光ヶ丘松林整備ボランティア等のイベントを開催し、意識の醸成に努めて参ります。

「森林・林業作業時の負傷(ケガ)の対応」 勉強してみませんか？

◆はじめに

林業作業を行う時は事故や負傷をしないよう常に心掛け、予防対策や情報収集を心掛けています。しかし、実際に負傷してしまった場合への知識は不足気味ではないでしょうか。

◆負傷に係る対応の習得に向けて

そこで、森林・林業に関係する方たちに対し、作業時に負傷者が発生した場合の対応を習得してもらうため、「森林・林業作業時の負傷に係る対応研修会」を開催することにしました。

◆研修状況

研修は令和4年9月28日(水)午後1時半から午後4時まで酒田地区広域行政組合消防本部第1会議室をお借りして実施しました。24名の参加があり、講師である酒田地区広域行政組合消防署みなと分署副分署長の松田 満氏と消防署松山分署消防士長の堀 浩佑氏から、林業作業中に発生した事故・負傷事例、救助知識・応急手当・搬送方法について座学や実技訓練を受けました。



重傷者への実技訓練状況

◆おわりに

事故や負傷はどんなに注意していても発生する可能性があります。今回の研修で得た知識が、林業作業や森林整備活動中に発生した事故や負傷の際に少しでも役立つのであればよいと思います。

〔庄内総合支庁森林整備課〕

高性能林業機械メンテナンス研修会を開催

令和3年度に策定した「やまがた森林ノミクス加速化ビジョン」などで目標としている令和6年度県産木材供給量70万m³の達成に大きな役割を果たすと考えられるのが高性能林業機械です。高性能林業機械の導入は、労働生産性の向上、生産コストの低減、労働災害の低減など労働環境の改善にも大きく貢献しています。

県内でも高性能林業機械の導入が年々増加しており、令和2年度における保有台数は20台となっており、最も多く保有されているのはフォワーダ（積載式集材車両）、次に多いのがハーベスタ（伐倒造材機）となつていますが、近年フェラバンチャ（伐倒集材機）の導入が増えてきています。特に、バックホウのバケットにカッターを収納し、立木の伐倒、バケットによる土木作業を1台で行うことのできるフェラバンチャザウルスロボが注目されています。

当協会では、10月19日に村山総合支庁森林整備課との共催で、天童市

桜町のレンタルのニッケン天童ヤードにおいて、フェラバンチャザウルスロボとフォワーダの最新モデルを使いメンテナンス研修会を開催しました。

研修会は、村山地域の林業事業者や行政関係者等17名の参加がありました。講師はレンタルのニッケンで高性能林業機械の整備に従事している職員が担当し、整備担当者の視点から、林業事業者で高性能林業機械を毎日使っている方々にいかに効率よく、故障を少なくし、上手に使うかアドバイスをありました。

◆フェラバンチャザウルスロボ

フェラバンチャザウルスロボは、松本システムエンジニア（株）（福岡県）が開発したグラップル機能（木材を挟む機能）とバケット機能（掘削機能）を併せ持つ多目的アタッチメントに格納式のカッターを取り付けたハイブリッド・アタッチメントで、立木の伐倒から作業道の作設までの作業を1台で行えます。研修では通常の建設機械でおこなう点検項目のほか、グラップルのここに亀裂



グラップルの点検箇所を説明

が入りやすいから見てほしいなどの具体的なアドバイスがありました。また、カッター刃先の研ぎ方について、グラインダーを使って実演し、刃先から3ミリの部分を研ぐこと、刃先から刃の背（みね）に向かって研ぐことなどが説明されました。刃先を研がないでカッター全体をピカピカにしたけれど、少しも切れなかつたという講師自身の失敗談を交えながら、刃先を研ぐことの大切さを話されました。

◆次世代型フォワーダ

イワフジ工業（株）のフォワーダU-5Eは高出力と環境性能を両立し

た最新モデルで、ディーゼルエンジンの排ガスの窒素酸化物（NOx）を浄化する技術である尿素SCRシステムを搭載していることなどの説明がありました。このフォワーダは最新モデルでメンテナンスが簡素化されているとのことですが、他社のフォワーダの構造などにも言及しながら、丁寧に点検箇所や注意点などを説明していただきました。

研修が終わり、参加者からは「分からなかったことに対して親切・丁寧に教えてもらい、大変わかりやすかった。」「操作についての研修もしてほしい。」などの感想・要望が寄せられました。



グラップル操作を体験

〔山形県森林協会〕

山形県の古木・名木 136

尾幡山の大スギ

飯豊町大字小坂

今回は飯豊町のスギの大木を紹介いたします。このコーナーでは県内市町村の巨木を紹介してきましたが、飯豊町だけ登場しておりません。飯豊町には、国・県指定の天然記念物がなく、町指定のものが4件だけで、紹介する機会がなかったようです。

このスギは山形県源流の森小坂区、尾幡山の西側中腹にある。無名、無指定の隠れた名木です。幹周は実測したところ6.8m、樹高は目測で約25mです。独特の呼称はなく、伝承なども調べた限りではないようです。根元から1.3mのところまで2本に分かれ、更に太い幹の3.8mで数本に分岐しています。古木のスギは成長が衰え梢端部が丸くなるのですが、このスギの梢の先端は尖っており、樹勢は衰えておらず、旺盛な成長を続けているようです。樹形から見ると典型的なウラスギで、周囲にはこれほど大きくはないが、同じような樹形のスギが数本自生しています。

場所が分かりにくいので、見に行かれる方は源流の森センターにお問合せ下さい。
〔山形県森林協会〕



(案内略図)



「山菜・きのこ」を食べて健康生活!

きのこは低カロリーで栄養豊富な健康食品です。

旬の贅沢 やまがたの山菜・きのこ

山形県山菜・きのこ振興会

〒990-2339 山形市成沢西4-9-32 ☎023-688-8100

—全国食用きのこ種菌協会会員—

〒999-7757

山形県東田川郡庄内町払田字村東17-2



株式会社 河村式種菌研究所

お問い合わせは：電話 0234(42)1122(代)
FAX 0234(42)1124

東北みちのくの珍味

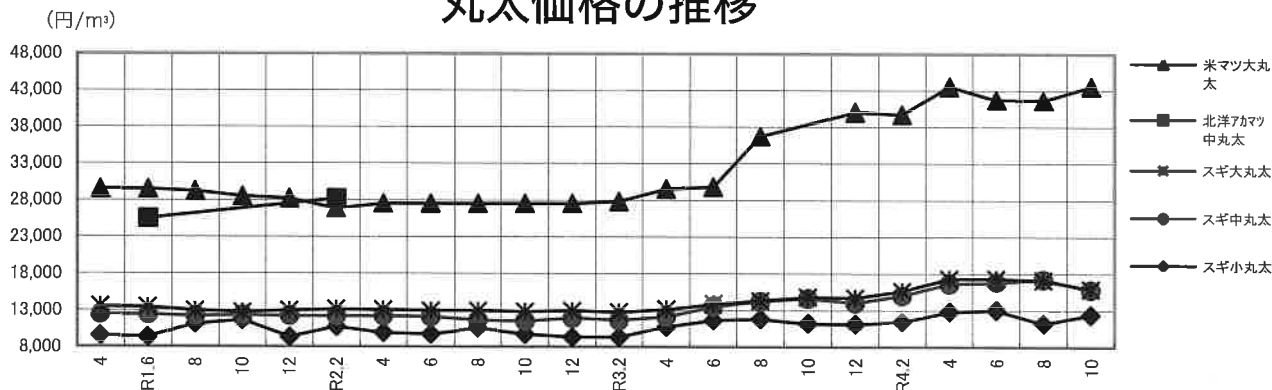
トンビマイタケ菌床 まいたけ 榎木

庭先でも栽培
できます。

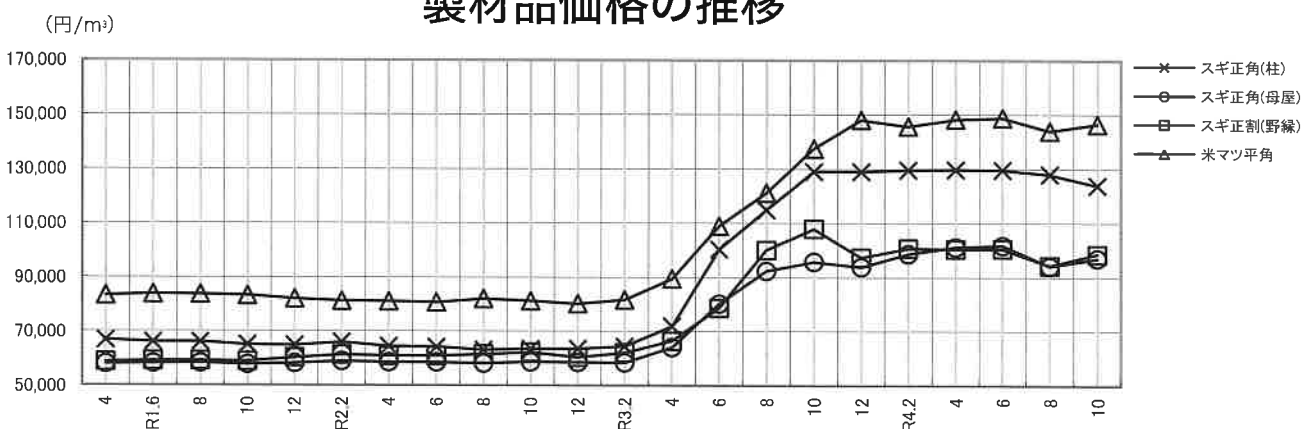


きのこ種菌 しいたけ・なめこ・ひらたけ・むきたけ・かのか・くりたけ他

丸太価格の推移



製材品価格の推移



スマート林業をサポートします。

調査・測量・設計・補償コンサルタント

株式会社 ザオー測量設計

(一社)山形森林調査協会 会員



〒990-2432
山形市荒楯町二丁目21-10
TEL:023-641-7811 FAX:023-641-7816

住んでよし心ゆたかな木の住まい



株式
会社

山形城南木材市場

- 木材製品市場
- 木材プレカット事業 (構造・羽柄・合板加工)
- 中大規模木構造建築・木工事・木質内装工事
- 原木市場 (杉、広葉樹等)
- J A S 認証工場 (機械等級)・木材乾燥・木材加工

〒990-2307 山形市表蔵王60番地の1

TEL. 023-688-2200 FAX. 023-688-2012 Email: jonan@mmy.ne.jp